

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04470

研究課題名(和文) 柳田国男監修高等学校国語教科書所収教材の実験的・連携的研究

研究課題名(英文) An experimental and cooperation study on teaching materials by which carried was carried out to the Japanese textbook of a high school which Yanagita supervised

研究代表者

佐野 比呂己 (SANO, HIROMI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：60455699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：これまで十分に研究されてこなかった柳田国男監修高等学校国語教科書について、その所収教材を中心に研究を進めてきた。所収教材そのものを分析、考察するとともに、分析・考察をもとに、研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践を検討する中で、教材としての有用性、問題点を抽出し、教材価値の検討を行い、時代は経過しても現代の高校生の国語教室において価値ある教材であるということを確認した。これらの共通認識を持ち、実践研究報告を学術雑誌に投稿、掲載された。

研究成果の概要(英文)：A study on the Yanagita editorial-supervision high school Japanese textbook which was not studied has sufficiently so far been advanced centering on the teaching materials carried. While analyzing and considering the carried teaching materials themselves, it had a class in high school Japanese based on analysis and consideration by cooperation with the teacher who is a research partnership person. While considering the lesson, usefulness as teaching materials and a problem were extracted and teaching-materials value was examined. Even if the time passed, it had the common view that they were valuable teaching materials in present-day high school Japanese education. The report of these lessons contributed to the scientific journal, and was published.

研究分野：国語科教育学

キーワード：柳田国男 増淵恒吉 国語科教材 随筆 高大連携 昭和30年代

1. 研究開始当初の背景

柳田国男は教育に関する論考を多く残してはいる。しかし、教育学の視点からは十分な分析・考察が試みられていないのが現状である。たとえば、長浜功氏は柳田を「新しい思考を備えた教育学者」と高く評価している。一方で、日本の教育学が「柳田と遠い距離にあったという事実」を指摘し、柳田の考えを教育学に生かすことを提言している。

実は、柳田は教育学のみならず国語科教育においても強い関心を示している。戦前より『国語の将来』をはじめとする国語教育に関する論考を多く残し、戦後には小学校から高等学校までの国語科教科書づくりに積極的に参加している。

日本の教育学が柳田と遠い距離にあったと同様に、柳田の国語教育論に関する研究についても、十分になされていないのが現状である。特に国語科教育の領域からの研究は少なく、小山清氏、小久保美子氏、研究代表者の研究がわずかにみられるだけである。

しかし、いずれも柳田の国語教育論をその著作から明らかにしようとするものであり、実際の教科書から明らかにしようとするものではない。教科書そのものの研究については、民俗学や教育学の領域からわずかに見られるだけであり、国語科教育の領域からは研究代表者の研究のみである。

また、柳田国男監修国語科教科書については、研究代表者の他には民俗学の視点から杉本仁氏、田中正明氏の研究が見られるだけである。

2. 研究の目的

本研究は、柳田国男監修検定高等学校国語科教科書(以下、「柳田教科書」と略す)所収教材を分析し、「柳田教科書」所収教材の価値を検討するとともに、高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を通して、その現代的意義を考察することを目的とする。「柳田教科書」所収教材、授業、そこで培われる学力、加えて現代的価値を高大連携により検討し、教材開発・選択の観点、教材からの授業の構想を提言し、新時代における国語教室の活性化に寄与することを目的とする。

現代は、今まで体験したことのない変動の時期を迎えている。日本人とは何かを問いつづけた柳田を研究する意味はますます高まっている。戦後の混乱期に、時代をどのようにとらえ、教育を、教科としての国語をどのように展開していったかを考察することは、現代の教育、教科としての国語を参照する営為があると確信する。

3. 研究の方法

「柳田教科書」所収教材を一つずつ分析していく。具体的には、中途段階にある「かみなりさま談義」(東条操)の研究を進める。引き続き、「紙」(幸田文)についても分析・考察を進める。「紙」以外の文章は、他社教科書には採用されておらず、「柳田教科書」のみに所収されている教材である。「柳田教科書」の特質を検討する上で有効であり、柳田の国語教育論を考察する上でも重要であると考ええる。また、「紙」(幸田文)については、角川書店高等学校教科書にも掲載されている。教科書における取り上げ方も比較する。既に研究に取り組んだ「ろくをさばく」(三淵忠彦)の原典である『世間と人間』(朝日新聞社 昭和25年)からは、績文堂高等学校教科書に「鹿を犬にした話」、池田教科書出版中学校教科書に「規律を守る心」がそれぞれ採録されている。これらと「ろくをさばく」を比較検討し、柳田の教材選択の特徴に迫っていきたい。加えて、当時の時代背景、学習指導要領、教科書改訂等を踏まえ、「柳田教科書」の特質に迫る。「柳田教科書」研究に業績のある研究代表者が担当し、研究分担者が補助する。

教材を単一にとらえるのみではなく、他の教材との関連にも意識し研究に取り組む。具体的には特定の単元を取り上げ、教科書における当該単元の位置づけ、単元の特徴なども明らかにしていく。

研究代表者のこれまでの教材分析を生かし、高大連携により高等学校国語科の授業で実験的に実践し、その成果と課題を検証する。具体的には高等学校教員を研究協力者とし、「柳田教科書」所収教材を使い、実際の教室で実践する。授業後、研究組織全体によって、その成果と課題を検証する。

「柳田教科書」所収教材を学力の視点から再検討を試みる。具体的には、昭和30年代という文脈から当時の学習者が当該教材を学習することを通して、どのような学力が形成されるのか考察する。また、実際の高等学校における授業を参観し、現代の学習者にとってどのような部分で有効か検証する。昭和20年代から昭和40年代の学力問題に業績のある研究分担者が中心に行い、研究代表者が補助する。

4. 研究成果

「柳田教科書」所収教材から「かみなりさま談義」(東条操)「紙」(幸田文)を分析、考察した。

また、柳田教科書所収教材の中から「浅春随筆」(柄内吉彦)「ろくをさばく」(三淵忠彦)「大蛇・小蛇」(片山広子)「地図をいるどる」(鍋木清方)を取り上げ、研究協力者

である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践に取り組むに際し、事前に日程打ち合わせ、教材研究会を行い、授業後には実践検討会を行った。実践報告から、教材としての有用性、問題点を抽出し、教材価値の検討を行った。時代は経過しても現代の高校生の国語教室において価値ある教材であるという共通認識を持った。

亀井秀雄氏、浜本純逸氏、小山清氏、小原俊氏からは専門的知識を提供していただき、今後の研究の方向性、研究に資する資料の提示等、ご指導いただいた。柳田がどのような意図を持って、教材選択に至ったのかを精査すべきであり、そのためには柳田の思想そのものを理解し、そこと関連づけながら考察する必要がある。

読み の教育の観点から現代の教材と比較するとともに現代の高校生に教材を提示する意義が確認できた。

研究成果は、学術雑誌、学内紀要に投稿し、計 22 編の論文が掲載されるに至った。内、13 編は高大連携により取り組んだ実践研究報告である。

「かみなりさま談義」については一応の研究を完了することができた。「紙」は研究の端緒にたどりついたところである。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 22 件)

(1) 佐野比呂己、教材「紙」考(4)、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、1-8 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9736/5/kokugoronshu-15-1-8.pdf>

(2) 花坂歩、間テキスト性概念は授業をどこに導くのか；高等学校の実践報告の検討とともに、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、9-18 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9737/1/kokugoronshu-15-9-18.pdf>

(3) 太田幸夫、対話的・主体的な学びを目指した授業の一考察；関わり合いと自らの学びのスタイルの確立を目指して、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、81-88 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9743/2/kokugoronshu-15-81-88.pdf>

(4) 大路直輝・花坂歩、「道徳科」における言葉の学習；問題意識のくすぐりと言語化の試み、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、152-161 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/>

[bitstream/123456789/9750/2/kokugoronshu-15-152-161.pdf](http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9750/2/kokugoronshu-15-152-161.pdf)

(5) 菅原利晃、古典に対する「見方・考え方」に関する考察；教材「大蛇・小蛇」を用いて、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、187-195 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9753/2/kokugoronshu-15-187-195.pdf>

(6) 谷口守、授業「地図をいろいろ」実践と考察；なぜ「地図をいろいろ」は読みにくいのか、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、196-212 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9754/2/kokugoronshu-15-196-212.pdf>

(7) 大村勅夫、高校国語における創作単元の提案；随想教材を活用する単元の考察、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、213-217 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9755/2/kokugoronshu-15-213-217.pdf>

(8) 太田幸夫、教材「ろくをさばく」実践報告、国語論集、査読無、第 15 号、2018 年、218-225 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/9756/2/kokugoronshu-15-218-225.pdf>

(9) 山本悟史、教材間のつながりを重視した授業実践；山極寿一『「攻撃」と「共存』』と三淵忠彦『ろくをさばく』をつなぐ、国語論集、査読無、第 14 号、2017 年、168-177 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/8240/1/kokugoronshu-14-168-177.pdf>

(10) 菅原利晃、教材「大蛇・小蛇」を用いた協同的学習；「動物話話」についての考察、国語論集、査読無、第 14 号、2017 年、178-185 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/8233/1/kokugoronshu-14-178-185.pdf>

(11) 谷口守、柳田国男編『国語 高校一年上』所収、「随筆・随想」教材の比較に関する考察；特に「挿話」分類について、国語論集、査読無、第 14 号、2017 年、186-197 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/8248/1/kokugoronshu-14-186-197.pdf>

(12) 大村勅夫、高校国語における「見方・考え方」の考察；随想教材を活用する単元の提案、国語論集、査読無、第 14 号、2017 年、198-204 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/>

bitstream/123456789/8239/1/kokugoronshu-14-198-204.pdf

(13) 佐野比呂己、教材「紙」考(3)、国語論叢、査読無、第8号、2017年、1-13頁。

(14) 花坂歩、教師のための「手引き」考 - 「教師」という在り方への拡張；月刊国語教育研究、査読無、第548集、2017年、28-31頁。

(15) 佐野比呂己、教材「かみなりさま談義」考(5)、国語論集、査読無、第13号、2016年、14-30頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7953/1/kokugoronshu-13-14-30.pdf>

(16) 菅原利晃、教材「ろくをさばく」を用いた単元学習；「法」の限界、「法」を超えるものとはどのようなものか、国語論集、査読無、第13号、2016年、125-132頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7956/1/kokugoronshu-13-125-132.pdf>

(17) 谷口守、授業「浅春随筆」実践と考察(二)；「二つの随筆」の扱い方、国語論集、査読無、第13号、2016年、133-140頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7957/1/kokugoronshu-13-133-140.pdf>

(18) 大村勅夫、随想を読むことの単元の考察；ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする指導、国語論集、査読無、第13号、2016年、141-148頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7962/1/kokugoronshu-13-141-148.pdf>

(19) 太田幸夫、協同的学習による「大蛇・小蛇」の実践、国語論集、査読無、第13号、2016年、149-153頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7954/1/kokugoronshu-13-149-153.pdf>

(20) 佐野比呂己、教材「紙」考(2)、語学文学、査読無、第55号、2016年、22-32頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/8086/1/gogaku-55-03.pdf>

(21) 佐野比呂己、教材「紙」考(1)、釧路論集、査読無、第48号、2016年、1-10頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/8221/1/kusiroron-48-13.pdf>

(22) 佐野比呂己、「地図をいどる」授業考；増淵恒吉「国語学習記録」から、語学文学、査読無、第54号、2015年 13-27頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7796/1/gogaku-54-04.pdf>

〔学会発表〕(計2件)

(1) 本橋幸康、高等学校国語科学習指導要領の改訂について；昭和30年代における柳田国男監修教科書を参考に、さいたま国語教育学会例会、2018年3月、埼玉大学

(2) 花坂歩、間テキスト性とその発動；高等学校の実践報告の検討とともに、釧路国語教育学会十勝特別例会、2017年5月、帯広北高等学校。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐野 比呂己 (SANO HIROMI)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：60455699

(2) 研究分担者

本橋 幸康 (MOTOHASHI YUKIYASU)
埼玉大学・教育学部・准教授
研究者番号：80386549

花坂 歩 (HANASAKA AYUMU)
大分大学・教育学部・准教授
研究者番号：20732358

菊野 雅之 (KIKUNO MASAYUKI)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：90549213

(3) 研究協力者

太田 幸夫 (OTA YUKIO)
北海道石狩翔陽高等学校・教諭
平成27～29年度

大村 勅夫 (OOMURA TOKIO)
北海道旭川東高等学校・教諭
平成27～29年度

菅原 利晃 (SUGAWARA TOSHIKI)
北嶺中・高等学校・教諭
平成27～29年度

谷口 守 (TANIGUCHI MAMORU)
北海道札幌啓成高等学校・教諭
平成27～29年度

大屋敷 全 (OOYASHIKI TAMOTSU)
北海道札幌東陵高等学校・教諭
平成27～29年度

山本 悟史 (YAMAMOTO SATOSHI)
大分県立別府鶴見丘高等学校・教諭
平成28～29年度

田口 耕平 (TAGUCHI KOHEI)

北海道帯広柏葉高等学校・教諭
平成 28～29 年度

菅野 菜月 (SUGANO NATSUKI)
北海道教育大学大学院教育学研究科・修士課程院生
平成 28～29 年度